

作品脇のQRコードを読み込むと解説動画を視聴できる



秋田美大付高等学院作品展

作者の思い、AR動画に

秋田公立美術大付高等学院の作品展「明日のクリエイターたち」が、秋田市中通の県立美術館で開かれている。シルバリングやアクセサリー、木箱ボックス、住宅の間取り図など個性豊かな卒業展。一部に拡張現実（AR）技術を活用した解説動画を付け、作者の思いを伝えている。7日まで。

1、2年生が授業で取り組んだ作品や、3年生の卒業制作など約300点が並び、解説動画では制作の流れや見どころを紹介。作品脇に掲示したQRコードを読み込むと視聴できる。

鈴木彩那（さん）（3年）の卒業制作「LUNA」は、銅板で作った月のオブジェとステンダグラスで作った星形のランプを組み合わせた作品。解説動画では、鈴木さんが「ステンダグラスの光が銅の月に反射するときれい。展示では（ランプ

の）明かりをつけた状態にしているのを注目してほしい」と話している。

解説動画は、秋田市のCプロダクション「ゼロ二ウムのサポートを受け、2年の有志1人が制作に挑戦した。昨年6月ごろから動画の撮影や編集方法、ARを活用した動画を作る専用ソフトの使い方を学んだ。

ARを用いた動画制作は県が主導する秋田DXクラブ活動支援事業の一環。事業はデジタル人材の育成を目標し、高校生に最新の技

7日まで 県立美術館 卒業制作など300点並ぶ

術を習得してもらうとともに、情報通信技術（ICT）の関連企業を知ってもらうと2021年度から実施している。

動画制作に携わった平澤陽夏さん（2年）は「ソフトの使い方がわからない時は生徒同士で助け合い、最終的に満足いく出来に仕

上がった。ARは個人ではなかなか取り組めなかった。なので、学校を通して身に付けられるのありがたい」と話した。

高等学院の薄田弦吾講師は「今まで『この作品はどう作っているんですか』と来場者に聞かれることが多かった。映像を通して気軽に解説を楽しんでもらう」と語る。

作品展は入場無料、午前10時～午後6時（最終日は5時）。

（島田実佑）



鈴木さんが手がけた卒業制作「LUNA」